



TITLE:

山本博士の追憶

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

CITATION:

神戸, 正雄. 山本博士の追憶. 経済論叢 1941, 52(6): 735-736

ISSUE DATE:

1941-05

URL:

<https://doi.org/10.14989/131555>

RIGHT:

東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第五十二卷 第六號

昭和十六年六月

哀辭 故山本博士遺影及署名

論叢

支那の農家と田賦附加税……………經濟學博士 八木芳之助

佛印幣制論……………經濟學博士 松岡孝兒

企業者勞働費論……………經濟學士 大塚一朗

貨幣流通期間と平均生産期間……………經濟學士 青山秀夫

時論

重慶政府の戰時物價政策……………十龜盛次

記事

山本博士逝く

追憶文

神戸 正雄 末廣 重雄 牧野 虎次 中瀬古六郎 本庄榮治郎

谷口 吉彦 松岡 孝兒 大塚 一朗 堀江 保藏 穂積 文雄

高木 眞助 蟻川 虎三 石川 興二 金持 一郎 岡本 清造

附錄

彙報

外國雜誌論題

本誌第五十二卷總目錄

追憶文

山本博士の追憶

神戸 正雄

山本博士ほど眞面目な同僚は少い。博士は何時遇つても用件しか話し出されたことはなかつた。博士から冗談とか無駄口とかいふものを聞いたことはない。人は兎角他人の批評のしたいものだが、其も博士から聞いたことはない。

博士の眞面目な性格は恐らく其信仰から來たものであらう。博士は固い耶蘇教の信者であつた。單なる形だけの信者ではなく、實踐的な信者であつた。酒も煙草も用ひず、永く京都に住居して居ながら、祇園、新京極へ足踏みされたことはなかつたさうだ。

此眞面目な性格は其學問にも現はれて居る。博士の研究的態度は眞摯其ものであり、其著書論文にも其態度がよく現はれて居る。博士の眞面目な書き物は見た

ことがあるけれども、其隨筆風なものを發見することはない。

博士の親孝行なことは有名である。博士は比較的結婚されたのが遅かつた。長い間、母君と御一緒に住つて居られたが、其は母君への心遣ひからであつたと聞いて居る。

博士は殖民政策の外に、工業政策を専攻せられ、社會政策にも關心を有つて居られたが、博士の思想問題に對する態度は始終一貫して排社會主義であつた。マルキストに對しては、正面から反對し、京都大學に於ける大正末期の學内思想動搖時代にも、博士は田島錦治博士と共に、敢然としてマルキスト運動を排撃された。此處にも博士の眞面目な性格が現はれて居る。其當時の情勢にては、今少しく寛容なる態度に出られたしとの感をもいだいたけれども、今にして思ふと、博士の態度の明確なりしことにむしろ敬意を表しなければならぬ。

私は博士には以上の點に於て敬服して居るけれど

追憶文

も、多少、潔癖の嫌があり、清濁併呑を敢てし得られなかつたといふ恨みがあつた。博士には随つて政治家的素質を認めることは出来ぬ。即ち博士は眞剣な學者であり、純真なる教育者であつた。其處に博士の使命があり、又完全に之を果したのである。